御簾薄青糸、藍革五緒、裏、白綾

小簾面青地錦緣、裏、白綾懸緒組八筋、

物見外御簾形、内繪、

立板内押レ綾繪如レ常

同緣錦

金物外金物、但開戸金物、并雨皮付レ鐵、散物也、

下張白色紙　散二白薄一

御座如レ常

御榻金物散物

〔源氏物語四十九寄生〕そのよさりなん、宮〇女二宮まかでさせ奉り給ける、ぎしきいと心ことなり、うへの女房、さながら御おくりつかうまつらせ給ける、庇の御車にて、庇なきいと毛三、檳榔毛のこがねづくり六、たゞのびらうげ廿、網代二、女房三十人、わらは下仕へ八人づゝ、さぶらふ、

〔仁和寺御傳〕寛助大僧正

保安二辛丑年十月六日、任二大僧正一六十五拜賀日、聽二庇車一濟信大僧正例也

〔玉海〕文治五年八月廿二日己酉、此日下二向南都一〇中略

今日出行儀

余〇藤原兼實冠直衣、庇車、依二遠所一不レ懸二下簾一、故實也、

建久四年四月廿八日甲子、此日女房、參二詣春日御社一〇中略庇車之後、出衣藤衣五領、但薄衣也、有二物具一、

〔百練抄十四四條〕貞永元年十一月九日丁卯、上皇〇後堀河御幸始也、廂御車、御直衣、奴袴、右大將〇藤原家嗣以下供奉、攝政〇藤原教實扈從、